

令和6年度 第2回今治市民提言会議 会議録

- 1 日 時 令和7年2月26日（木）午後3時00分～午後4時30分
- 2 会 場 今治市役所 第2別館11階 特別会議室4号
- 3 内 容
- 1 開会
 - 2 議題
 - (1) 今治市総合計画の策定について
 - ①人口減少社会における、次の10年間の理想のまちづくりについて
 - ②今治市の将来都市像を実現するために伸ばすべき今治市の独自の強み及び改善すべき課題について
 - 3 閉会
- 4 出席者
- ＜今治市民提言会議 委員＞
- 井上 衣美 小笠原 孝子 越智 人史 原田 瑞紀
廣川 怜史 森 譲寛（会長）八木 伸樹（副会長）
- ＜議事担当課＞
- （市民が真ん中課）尾崎課長補佐、安部主事
- ＜外部事業者＞
- （有限責任監査法人トーマツ）玉井 智文
- ＜事務局＞
- （市民が真ん中課）馬越課長、渡邊課長補佐、月原係長、上甲主査

日 時 令和 7 年 2 月 26 日（木） 15:00～16:30

場 所 今治市役所第 2 別館 1 1 階 特別会議室 4 号

※議事内容 1 および 3 については省略

	（議事 2 議題「今治市総合計画の策定について」）
尾崎市民が真ん中課長補佐	（総合計画の概要、構成、策定スケジュール、今治市人口ビジョン、今治市総合計画の将来都市像の検討状況について説明）
委員	Uターン、Iターン者や高校生の声などで、雇用に関する不安や課題はあるか。
尾崎市民が真ん中課長補佐	高校生アンケートの結果からは、女子生徒の転出意向が高い傾向が見て取れる。今治から移転したい理由として最も多かったものは、「買い物の利便性がよくない」ことで、「雇用が少ない」ことは 5 番目に多かった。
委員	今治市が今後目指す人口規模は。
尾崎市民が真ん中課長補佐	国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、今治市の人口は 2050 年に 10 万人を下回る予想となっており、少しでも長く 10 万人以上を維持したいと考えている。
	（人口減少社会における、次の 10 年間の理想のまちづくりについての意見）
委員	人口が減少していく中でいかに高い生活水準を維持したままにできるかが重要で、人口の少ない地域は自治会や集落等で地域を守っていけるよう、小さなコミュニティを大事にしていくことが必要と思われる。
委員	造船やタオルといった主要産業があるが、安定した暮らしが可能な労働環境を充足されたい。
委員	「帰ってきたいまち」という要素を将来都市像に盛り込まれたい。進学で市外に転出したとしても、地元に戻ってきて仕事がしたいと思えるよう、雇用の幅や、育児サポートの面などの環境づくりが重要である。
委員	ニーズに沿った地域医療の継続と看護師確保に向けた施策を検討されたい。
委員	地域住民同士の顔が分かるように、地域の祭りについて継続的な実施や新たな展開を期待する。
委員	島しょ部では観光産業の働き手が不足している。移住者も増加している中で、住むところがない、生活しづらいという状況を変えていく必要があると思われる。
委員	海事産業や観光資源もあり、F C 今治やマルシェ、ゆるキャラなど、他のまちにはないエネルギーがある。こういった既存のものからどう地域を循環させていくかという視点を都市計画に入れていただきたい。

	(今治市の将来都市像を実現するために伸ばすべき今治市の独自の強み及び改善すべき課題についての意見)
委員	今治への訪日外国人をとっても、仕事や観光など様々な目的があるため、今治市の関係人口の解像度を上げることが今治市独自の将来都市像の検討につながる。
委員	ふるさとを想う若者を育てていくため、民間事業者も協力して教育機関をサポートできる体制が必要と思われる。
委員	将来都市像や4つの軸はよくまとまっている。
委員	「帰ってきたい」というキーワードが重要である。そこに産業など今治らしさを盛り込むことができればいいのではないかな。
委員	国際化の要素を盛り込むこともよいのではないかな。
委員	アンケート結果では自然景観の満足度は高いため、子どもの頃から自然や景観を体験できるようにするのがよいのではないかな。
委員	住民のつながりの強さも大事にした内容が望ましい。
委員	魅力ある自然風景等の景観について発信できれば、市外の人を訪れるきっかけとなる。
委員	10年後の未来に大きく変わる可能性が高いDX化、IT化という要素がテーマとして盛り込まれることを期待する。